



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 隆也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会費は会費に含まれています。)

平成30年度第4回木材需給会議

林野庁は、平成31年3月22日(金)に「平成30年度第4回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(平成31年第2四半期及び第3四半期)」を策定・公表した。

I. 主要木材の需給見通しの要点(抄)

1. 平成31年第2四半期(4~6月)の需給は、国産材合板用丸太は、前年同期に比べ増加、国産材製材用丸太、輸入丸太、輸入製材品、合板及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

2. 平成31年第3四半期(7~9月)の需給は、国産材製材用丸太、国産材合板用丸太及び合板は、前年同期に比べ増加、輸入丸太、輸入製材品及び構造用集成材は、前年同期に比べ減少する見通し。

3. 平成31年度の新設住宅着工戸数は、着工の4割前後を占める貸家が貸出姿勢の慎重化等から減少が続いていることから、前年度に比べ減少すると見込まれる。消費税率引き上げ前の駆け込み需要とその後の反動減は、税率の引き上げ幅が小さく、政府の対応策等を踏まえ、前回の引き上げ時の影響よりは小さいものと見られる。

II. 需給会議資料の概要(抄)

1. 一般経済の動向

2018年度の実質GDP成長率は前年比+0.5%と4年連続でプラス成長を達成すると見込まれる。景気は横ばい圏での推移に踏みとどまること予想される。2019年度は、10月の消費税率の引き上げは小幅であり、駆け込み需要・反動減とも前回と比べて小規模。雇用・所得情勢の改善を背景に消費者マインドの悪化は軽微にとどまるうえ、一部軽減税率適用や経済対策の効果が見込まれ、東京オリンピック・パラリンピックも控えている。消費の落ち込みは一時的となる予想。実質GDP成長率は前年比+0.6%とプラスを維持できる見込み。米中貿易摩擦は対立激化によって両国経済が共倒れとなる事態は回避されると思われるため、各国の経済対策効果、ICT関連需要の持ち直しを受け世界経済は回復に転じ、輸出も緩やかに増加する見込み。

2. 住宅着工見通し

2018年の住宅着工は、貸家の減少が大きく影響し、前年比2.3%減の94.2万戸、全体の約6割を占める木造

住宅も前年比1.1%減53.9万戸、共に2年連続の前年割れ。今後の住宅着工見通しについて、民間シンクタンク等の予測は、2018年度は90万戸台前半、2019年度は90万戸台前半、2020年度は80万戸台後半となっている。

3. 木質バイオマスの動向

平成30年度は、燃料材需給動向調査にて、連続して回答のあった58発電所の燃料調達量のデータで日30年10~12月の燃料調達量は、未利用木材が388,067絶乾トン、前期比8%の減。一般木材

は305,469絶乾トンで、8%の減。国内未利用材は不足感あり、引き合いは強い。海外燃料材は、海外チップおよびペレットが前期比30%減少、PKSは前期比4%の増。稼働を開始する発電所が控え、季節変動の波があるも、長期的に燃料材の需要の増確実。

4. 木材輸出の動向

平成30年1月から12月までの木材輸出数量は、丸太115万7千m³、前年比19.3%の増、年間100万m³を超えた。製材14万9千m³で11.6%の増、合板12

主要木材の入荷量等の概要

Table with 7 columns: 国産材丸太 (製材用, 合板用), 輸入丸太, 輸入製材品, 合板, 構造用集成材. Rows include 28年計 (実績), 29年各四半期実績, 29年計 (実績), 30年各四半期実績, 30年計 (実績), 31年各四半期見込み/見通し.

(単位: 千m³, %) (括弧内は前年比又は前年同期比)

万7千㎡で8・1%の増。

輸出総額は、350億6千9百万円と前年比7・4%の増。国別は、中国が158億円6千9百万円で前年比9・3%の増、木材輸出総額の45・3%を占めた。第2位のフィリピンは79億4千3百万円7・5%の増、第3位の韓国は32億3千3百万円と12・6%の減、第4位の米国は25億3百万円32・2%の増。

5. 国産材丸太(製材用)の動向

平成30年第4四半期実績は、需要は底堅く、製材も大手を中心に需要見合いの供給、前年同期比増加。建築現場の遅れ等なかったが、都市部の人手不足が地方へも波及し、今後、物輸と併せ課題が顕在化する懸念の声。31年第1四半期の見込は、需給全体として落ち着いた動き、需要はしばらく安定との見方が大勢、前年同期比で増の見込み、流通分野は製品価格について強含み期待から、保合あるいは若干弱含みに転じ、昨年比価格上昇への期待少なく、需要に応じた手当統いでいる。住宅用プレカットは、引続き大手は安定した事業量確保できている模様。東北の一部を除き暖冬の影響もあり、素材の供給は安定も、新設の合板・LVL工場、木質バイオマス発電所の操業開始などの影響か、特に製材用の原木の入手が難しいとの声が西日本、九州を中心に聞かれ、第2四半期は、引き続き、供給に見合った需要で動く。価格も安定し、落ち着いた需給が続くが、前年同期比で減、第3四半期は、現時点では、供給側に大きな変化があると考えにくく、供給に合せた需要が続き、前年同期比増の見通し。

6. 国産材丸太(合板用)の動向

平成30年第4四半期実績は、堅調な住宅着工(特に構造用合板の需要増大)、国産材合板へのシフトの促進、輸入合板の減少傾向、型枠用合板他フロア合板等への国産合板の需要増大、サバ州の丸太輸出禁止の継続、国内合板工場のフル稼働、合板工場の設備投資による生産能力効率アップ等により、前年同期比増加。31年第1四半期は、稼働日の減少あるが、前期要因により前年同期比増、第2四半期は、5月の10連休及び働き方改革による稼働日の減少あるも、前期要因に加え、新設合板工場の稼働開始もあり、前年同期比で増加、第3四半期は、前期要因により前年度期比増の見通し。

7. 米材丸太需要動向

平成30年第4四半期の実績は、住宅着工数が持家・分譲中心に堅調に推移し、前年同期比で増。31年第1四半期は、今年から米マツ製材の最大手クラスが操業を停止する影響が大きく、米材製材の採算は昨年より悪い、他産地材や集成材との競合が厳しく、米材の需要が構造的に伸び悩み、前年同期比減、第2四半期は、本来、夏場に向けての需要期であり、10月からの消費税増税前駆け込み需要増もあり得るが、前期のような事情もあり、需要は大きくは伸びないと思われる、前年同期比で減少、第3四半期は、年間通じての需要期であり、前年同期並みの見通し。今回の消費増税前の仮需は大した規模にはならない。「米中貿易摩擦」が妥結するか不明な中、対中向け米材輸出が滞りだし、交渉が長引けば、世界的な米材の需給に甚大な影響を及ぼしそう。

8. 米材製材品需要動向

平成30年第4四半期実績は、10、11月はプレカット工場への動き良かったが、12月は少し落ち着き、前年同期比減。31年第1四半期は、年度末決算を控え、荷動きの低下が予想されるが、前年同期比は若干増、第2四半期は、決算明け4月は、仮需も期待できるが、4・5月の10連休による稼働率低下で、前年同期比減、第3四半期は、消費税増税による駆け込み需要は、流通過程においてさほど影響はなく、前年同期比減少の見通し。

9. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

(1) 米材丸太供給
平成30年第4四半期実績は、大手業者が製材事業を撤退したことやカナダ材の合板向けも若干減少し、前期より減少。平成31年第1四半期は、5月の大型連休前に入荷を考慮するお客も多く、配船前練り、降雪による集材への影響も現時点では特になく、前期より増、第2四半期は、大型連休を避ける形で配船数が減少し、前年同期比減、第3四半期は、前年と同程度の需要見込みが、撤退した業者の影響大きく、前年同期比減の見込み。

(2) 米材製材品供給

平成30年第4四半期実績は、SPFの価格が下落し、供給不安がなくなり慌て買わなくて良い状況になったこと、T P P発効による新関税導入のため入荷が抑制され、前年同期比減。平成31年第1四半期は、S P F在庫調整及びその他の樹種も、入荷は限定的で、前年同期並み、第2四半期は、半年間買い控えて在庫調整も一段落、消費税駆け込みも想定

され入荷は増加するも、急増につながると思えず、供給量も限定的で前年同期比減、第3四半期は、夏季の山火事懸念もあり、前年同期並みの見通し。

(3) 欧州材製材品供給

平成30年第4四半期実績は、西ヨーロッパで発生した風倒木は材質が低下するため、北米向け2×4に使用、良材を求めると日本向け減少、RWの構造用梁が供給過多となり、前年同期比減。平成31年第1四半期は、RWの市況低迷、羽柄材もオフア一減量で入荷減、前年同期比減、第2四半期は、RWは若干回復するも引き続き在庫調整、羽柄材も供給タイト感あり、前年同期比減、第3四半期は、対日市況の回復、消費税駆け込みの一方、世界市場の低迷と現地工場の夏休みによる操業短縮もあり、前年同期並みの見通し。

(4) 北洋材丸太供給

平成30年第4四半期実績は、この時期は、極東材からシベリア材に切り替わる端境期で前期より減少。平成31年第1四半期は、輸出関税の動向次第も、大きく上下することも無いと思われ、前年同期比増、第2四半期は、前期要因により、入荷量に変化は無いと見込むが、前年同期比では減、第3四半期は、前期要因により、前年同期並みの見通し。

(5) 北洋材製材品供給

平成30年第4四半期実績は、買い付け継続し、前年同期比増。平成31年第1四半期は、前期の流れ受け、順調な買付が予想されるも、寒波影響もあり前年同期比減、第2四半期は、出材期も買い続けた結果として高値疲弊もあり、あまり伸

びず、前年同期並み、第3四半期は、端境期で入荷も抑えられ、前年同期比減の見通し。

(6) 輸入構造用集材材供給

平成30年第4四半期実績は、前期のRW市況低迷で入荷抑制につながり、前年同期比減。平成31年第1四半期は、前年同期RW市況低迷で買付入荷抑制により、前年同期並み、第2四半期は、引き続きRWの市況悪く数量が抑制され、前年同期比減、第3四半期は、前期より若干回復が期待も、厳しい価格での交渉、夏季の工場操業短縮から、入荷量は抑制気味も、需給・在庫調整付き、前年同期比増見通し。

10. 南洋材製材品の需要動向

平成30年第4四半期実績は、秋需感じられず低調な需要、前年同期比減。平成31年第1四半期は、年度未完工物件や改修工事物件等もあり、一定の荷動きあり、前年同期比増、第2四半期は、増税前の工事物件需要は、住宅・非住宅含め増え、前年同期比増、第3四半期は、工事全般が集中する時期、学校などの改修工事も例年あり、前年同期比増加の見通し。

11. 国産、輸入合板の需要動向

(1) 国内製造合板需要

平成30年第4四半期実績は、大手プレカット・住宅メーカーが牽引し、中小工務店も活発化し、構造用需要と、フロア合板などの非構造用需要は好調に推移、前年同期比増、年で最大需要の四半期となった。平成31年第1四半期は、消費税増税前の小規模な駆け込み需要があるが、大手プレカットの需要が一旦ピークアウトし、前年同期並み、第2四半期は、駆

け込み需要は続き、大手プレカットをはじめトーンダウンしていた需要も連休明け以降、需要の回復が見込まれるも、5月連休、働き方改革関連法案の施行等で実稼働日が減少し、前年同期並み、第3四半期は、消費税駆け込みを平準化する住宅取得政策が多く実施され、非住宅分野の木造建築や非構造用合板の用途増加が継続し、新規稼働工場の生産も軌道に乗り供給が増加し、前年同期比増の見通し。

(2) 輸入合板需要

平成30年第4四半期実績は、在庫アイテムによる過不足状態続くこと予測も、大きく超える供給となり、前年同期比増。平成31年第1四半期は、前期の入荷量の増加で不足感のあったアイテムも解消に向かい、産地コストは上昇にあるがシッパの販売姿勢から、需要側は手当を急ぐ気配なく、前年同期並み、第2四半期は、現地の丸太不足の改善や価格上昇のピークアウト、昨年からの滞船、コンテナ比率の上昇による港湾倉庫のキャパの減少が続くといった供給事情から、需要は、昨年平均水準程度の手当はアイテムを切らさないように行うが、前年同期比減少、第3四半期は、前年同期、コンテナ比率上昇による港湾人手不足の状況に改善変化の予測立たず、昨年までの2年間の薄物、中厚物の港湾倉庫での品不足から、充足されてきた供給状況から、減少する供給量に需要量も見合って、前期より減少見通し。

12. 国内製造合板供給

平成30年第4四半期実績は、堅調な住宅着工、合板工場のフル稼働、輸入合板

の減少傾向、産地の違法伐採対策等環境問題の影響、フロア合板用国産材合板の需要増大、設備投資による国産材合板の生産能力、効率のアップ等により、前期より増。平成31年第1四半期は、稼働日の減少あるが、前期要因により、前年同期比で若干増、第2四半期は、前期要因に加え、新工場の稼働開始により前期より増、第3四半期は、前期要因により、前年同期比増見通し。

■30年全市連総会表彰者決まる

平成30年度全市連功労者会長表彰については、3月11日(月)に開催した全市連功労者表彰審査選考委員会で決定し、5月20(月)開催の第64回総会・東京大会の席上で表彰状を贈呈致します。受賞者の皆様の御労苦に敬意を表すと共に、心よりお慶び申し上げます。受賞者の方々は次のとおり。

(会長表彰)

- 「東北」村上富士雄(北海道木材市場(協))
- 「関東」鈴木隆夫(協) 奥久慈木材流通センター、武田京子(株) 宇都宮総合木材市場、山川浩二(株) ミトモク、横須賀太郎(株) ミトモク、木内廉尚(有) 丸平木材、田中智子(ナイス(株) 新潟市場)、「関東」池田興一(株) 筑波丸伸、大塚 仁(東京中央木材市場(株))、森廣 優(東京中央木材市場(株))、宇鉄久男(株) 東京木材相互市場、岸論(株) 東京木材相互市場、山本清美(株) 東京木材相互市場、山本有一(株) 東京木材相互市場、梅原貞二(丸宇木材市売(株))、鈴木

- 薫(丸宇木材市売(株))、国島真由美(株) 横浜連合木材、三溝 泉(株) 横浜連合木材、「東海」渋谷孝行(ナイス(株) 長野市場)、「近畿」丸井孝文(吉野木材協同組合連合会)、山口 玲(桜井木材(協))、生駒 勝(上吉野木材(協))、泉川秀子(上吉野木材(協))、尾上幸成(上吉野木材(協))、昆布憲次(上吉野木材(協))、丸谷昌之(西垣林業(株))、森脇 優(西垣林業(株))、「中国」宮本泰輔(真庭木材市売(株))、谷元 明(株) 津山総合木材市場、富岡 敦(株) 津山総合木材市場、早瀬耕二(株) 津山総合木材市場、「四国」谷本小百合(第一木材(株))、本政志(株) 日吉原木材市場、「九州」池田順二(株) 伊万里木材市場、市丸貴子(株) 伊万里木材市場、興相賢一(株) 伊万里木材市場、金丸勝彦(株) 伊万里木材市場、寺本裕二(熊本木材(株))、宮原邦章(熊本木材(株))、大嶋恵子(大分県木材協同組合連合会)、佐藤貴臣(株) 日田中央木材市場、武内裕児(株) 日田中央木材市場、藤井恭司(日田木材(協))

- 「関係」浅野正樹(株) Aishin・H.K.K.I)、西泉(株) ナゴヤ辻文)、真澄智明(飯南木材(株))

■平成30年度木材アドバイザー養成講習結果

当連盟は、4月4日(木)、東京都文京区の日本森林林業振興会会議室で、「木材アドバイザー審査委員会」を開催した。委員会には、岡野健東京大学名誉教授をはじめとする講師が出席し、今年2月に東京会場及び大阪会場で開催した

「平成30年度木材アドバイザー養成講習会」の受講者について試験結果等をもとに、資格審査を行い、合格者82名を決定した。合格者の氏名は、全市連のホームページにも掲載する。また、問い合わせがあれば、名簿の提供を行う。合格者は以下のとおり(敬称略 五十音順)。

有野和幸(山梨県)、井澤健人(滋賀県)、石川大(東京都)、石平勇(山梨県)、市橋淳(大阪府)、井上篤(福島県)、今成芳徳(埼玉県)、岩田圭介(東京都)、巖水観月(山口県)、植島周平(奈良県)、植松誠之(奈良県)、宇田真也(滋賀県)、内田晶子(大分県)、内山博数(東京都)、榎本大志郎(和歌山県)、遠藤勝政(千葉県)、圓佛英之(福岡県)、及川幹(愛知県)、大川幸樹(東京都)、大塚仁(千葉県)、大堀雅人(東京都)、岡田美津代(神奈川県)、小木曾哲也(千葉県)、沖野裕陽(京都府)、小澤和彦(愛知県)、尾上幸成(奈良県)、笠原正志(栃木県)、加藤要裕(千葉県)、河合寿司(奈良県)、河野健志(東京都)、木村孝一(福島県)、清藤奈津子(岐阜県)、五木田高明(東京都)、小田章弘(静岡県)、齋藤謙一(東京都)、阪口浩二郎(奈良県)、佐々木哲郎(福井県)、佐藤俊介(福島県)、嶋野雄二(静岡県)、下澤孝友(大阪府)、下山徹(和歌山県)、上西勇次(東京都)、城山武彦(長崎県)、鈴木康浩(神奈川県)、須藤駿介(東京都)、高木恭子(京都府)、高島誠(富山県)、谷村龍二(愛知県)、弦巻翔大(東京都)、勅使川原智美(東京都)、土岐祐也(東京都)、土橋紀孝(静岡県)、仲林健二(奈良県)、中森重樹(奈良県)、中山敦生(大阪府)、奈須隆男(宮

崎県)、夏目大介(大阪府)、南條緑(宮城県)、西山健志(大阪府)、沼田真実(愛知県)、野口陽一郎(宮崎県)、橋本政志(愛媛県)、橋本守(神奈川県)、林茂樹(富山県)、古田啓悟(長野県)、保坂真名(千葉県)、星野郁人(東京都)、牧野泰斗(岡山県)、松本津幸(石川県)、三ツ本香織(東京都)、南佳延(奈良県)、向井康弘(大阪府)、森下祐一(大阪府)、薬師寺さおり(大阪府)、山口真保呂(長野県)、横山義学(奈良県)、了津誠(新潟県)、レー・ヴィ(東京都)、若山竜平(東京都)、渡辺啓太(山形県)、渡辺司(東京都)、渡部泰(東京都)

■都市木造化推進議連発足(自民党)

平成31年4月18日(木)、自由民主党本部(東京都千代田区永田町)において、「森林(もり)を活かす都市(まち)の木造化推進議員連盟」の設立総会が開催された。議連の規約によれば、その目的は「伐期を迎えている国産材の一層の需要拡大を図る観点から、都市における中高層建築物や非住宅分野への木造・木質化を強力に推進し、国家的課題の地球温暖化防止、地方創生、国土強靱化等の実現を目指すため、需要の中核を担う住宅・建設業界や供給を担う森林・林業・木材産業界等と一体となって、国への政策提言を行うこと」とされている。当日、午前中までの入会国会議員(自民党)は、61名(衆議院49名、参議院12名)。設立総会では、「設立趣意書」、「連盟の規約」の採決並びに役員を選任が行われた。議連の会長には、吉野正芳 先生(衆議院・

福島5区)、副会長には、あきもと司先生(衆議院・東京15区)、江藤 拓先生(衆議院・宮崎2区)、齋藤 健先生(衆議院・千葉7区)、坂本哲志先生(衆議院・熊本3区)、谷 孝一先生(衆議院・兵庫5区)、松野博一先生(衆議院・千葉3区)、野村哲郎先生(参議院・鹿児島)、幹事長には、金子恭之 先生(衆議院・熊本4区)、事務局長には小島孝文 先生(衆議院・中国)がそれぞれ選任された。総会には、牧元幸司林野庁長官及び石田優国交省住宅局長をはじめとする関係省庁の担当者が出席し、関係団体からは、前田直登日本林業協会会長、島田泰助全国木材組合連合会副会長、村松二郎全国森林組合連合会代表理事会長、木村一義日本木造耐火建築協会会長等多くの関係者が出席した。当該議連は、今後、設立が予定されている民間の「森林を活かす都市の木造化推進協議会」と連携して活動していくとのこと。議連の活動により、都市の木造・木質化が一層推進され、国産材等の需要拡大が更に進むことを期待したい。



議員連盟設立総会の様子

雑記帳

過日、上野の国立博物館で縄文展が開催された。発掘調査の進展と技術の進歩等によって、縄文人は狩猟採取民で、縄文時代を通じて、ずっと遊動あるいは季節移動の生活が主と考えられていたイメージが大きく変わってきたようである。定住化の指標とも言える住居等についても小型の竪穴住居だけでなく、大型の木造建築(共同住宅、儀礼的施設、工房等)も造られていた。大型木造建築の床面積は300㎡を超えるものもあり、後の弥生時代で最大級と言われるものでも、200㎡内外であることを考えると常識を覆す規模である。また、三内丸山遺跡(青森県)の大型木造建築(ロングハウス等)には、直径1mものクリの丸太が使用され、復元建築するためのクリ丸太が国内では調達できず、ロシアから輸入されたとの話もある。縄文時代の三内丸山では、食料としてのクリの実の採取と建築資材等を得るため、集落周辺にクリ林を選択的に造成していたことが、花粉分析等によって分かっている。造林とは断言できないが、少なくとも天然林改良・育林技術があったことが伺われる。縄文人はクリ、クルミ、ドングリ、トチノミ等の堅果類を採取・利用し、越冬等に備え、その保存のために作られた貯蔵穴も多く確認されるようになった。佐賀県の坂の下遺跡(縄文)から出土した多くのアラカシの実約4千年前)の中の1つは、その後、4千年の時を超えて発芽し、現在は高さ15mを超える大木に育っている。古代人の知恵と植物の偉大さに感嘆。